

大津島データ 131世帯
人口 171人 男 73人 女 98人
高齢化率 78.9%
(令和6年7月31日現在)

潮流

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



小池 良太 三島 政義 石田 三生 渡邊 あゆ子



新しい消防車が来た

6月19日に大津島の消防団に新しい消防車の配備式が周南市消防本部で行われました。新しい消防車の中にある様々な設備なども含めて国から無償貸与されたものです。何かしらの災害時にこの消防車が出動すればおおよそ対応できるような設備が整って

おり、小型ポンプやホース類一式、チェーンソーや防護用の資機材、梯子や夜間対応のための投光器などの設備が消防車に備わっています。前まで刈尾機庫にあった大きな消防車と入れ替わった数は前と同じ3台(本浦機庫、刈尾機庫、馬島機庫)となります。

新しい消防車も配備され我々消防団としてもより一層島民の皆さんの安心安全に寄与できるよう尽力していきたいと思っております。災害時や緊急搬送が必要なものなどはご連絡ください。必ず出動できるというわけではないかもしれませんが、何かお困りのことや、誰に相談していいかわからない時など遠慮なくお声がけください。誰かに助けてもらいたいなと思った時の連絡先の一つとしてもらえ



タイヤ
チェーンソー
ゴーグル
手袋
防護スポン

文川大津島消防団

副分団長 小池 良太



ればと思います。暑い日が続きます。ご自分の体調が優れないな、ちょっとしんどいなと思った時は身体を休めて頂いて、ご自愛ください。もしもの時は大津島の消防団が居ると思っ

て島での生活の不安が少しでも無くなれば幸いです。

分団長 三島 政義

副分団長 小池 良太

070-4385-23003
080-6310-0024

残暑の候 皆様におかれましては、

益々ご清栄の事とお慶び申し上げます



さて、私事一身上の都合により、昨年五月、コミュニティ推進協議会会長の役を辞する事にしました。コミュニティ会長二十余年の在任中、大過なく、その任を果たせましたのも、皆様方のひと

かたならぬご厚誼の賜物と存じ、謹んで深謝申し上げます。

今後は、新会長の元で、より一層の大津島発展のために、皆様のご協力、ご支援をよろしく願っています。終わりに見守ってまいりたいと思っております。終わりに見守ってまいりたいと思っております。終わりに見守ってまいりたいと思っております。多幸を心から祈念いたしましてごあいさつに変えさせていただきます。

文川安達 壽富

大津島郵便局メンバー紹介



26年前に2年間大津島で働いていた縁で月に2回程助っ人として勤務します石黒です。当時は島民500人、小中学校もあり教職員家族、駐在さんも島で生活し夜は皆さま

馬島でバレーの練習で楽しんでいた記憶があります。覚えていらっしゃるらぜひお声掛けください！

石黒 光俊



約20年ぶりの大津島郵便局勤務です。月1日ほどですがよろしくお願ひします！

佐藤 博文



大津島に初めてきました。大自然の中でいっぱい、リフレッシュしたいです。よろしくお願ひします。

田上 桜子



今年の4月から大津島郵便局で月3日ぐらい勤務しています浅海(あさのみ)です。皆さんのお役に立てるようがんばります。よろしくお願ひします。

浅海 マコト



これから数回大津島にお邪魔します！よろしくお願ひします！

山近 菜月

ひろしのつばや



満州事変勃発と共に産れ支那事変、大東亜戦争

と軍国少年教育訓練で成長し、14才義務教育卒業で無残な敗戦を知り、戦後の食糧難物資の無い生活を知り、次後79年戦中時の親達の辛苦を知る復興開発と平和な時を人生百年と唄い、豊かな時代を送る我々こそ誠の幸を知る者と自負するが限界とも壊滅と云える古里大津島の現状を遠い昔一人の先輩達が造りも歴史も壊滅して無となるか。潮流発刊。島越し隊の思いか島中の神社の写真を表紙に取り上げて居る孤島小さな島の各集落の立派な神社は威容を感じる。馬島地区の葛原神社には樹齢500年の松の太木が有ったと聞く石段高く建立も大工事だ。刈尾も2基の鳥居と大広前の2本石柱大きな手洗石、1対の灯籠狛犬と石積高く鎮守の杜も拝殿本殿と立派な杜だ。本浦の木原神社も海辺に鳥居をかまへ、奥深く参道石段の広場の上に石段と大きな杜に、境内にある力石に古代の若者のたくましさを知る。又天ヶ浦の大明神の建立、近江の山中の登参道など各集落の建立せし杜の古き先祖達の行跡は自立独立の安全平和の精気の協力の結集であらう。小学生時代は馬島校との交流も運動会や学芸会に参加、遠き山道を巡り、馬島校の私服姿の女生徒の多いのに異国に着いた思いが有る。高等科ともなれば大津校に編入となるが常に馬島校生徒が体格も勉力も優位であった様に思ふ。限界ともなる此の島を助ける事は頑張る若潮の会員にゆだねる他にないかと廣志はつぶやく。(原文のまま)

文川屋野 廣志

若潮の会通信 No.57

刈尾海岸 清掃活動に参加して

昨年、12月の大津島ポテトマラソンのボランティアに参加した事がきっかけで若潮の会メンバーに加入させていただきました。

さて、梅雨明け直後の7月27日、雲ひとつ無い夏空の元、刈尾、三ツ石海岸の清掃活動が実施されました。当日は朝から30度を超える気温で、参加者全員汗だくになりながらゴミ拾いをしました。巡航船に乗って海から眺めるとききれいに見える海岸も、実際浜に出てみると何処から流れてきたのか、空き缶、ペットボトル、プラスチック容器、ビニール袋、中には絡まった釣り糸など、さまざまゴミがうち揚げられていました。



ゴミ拾いを終えきれいになった海岸では、子供たちも参加して稚魚の放流が行われました。稚魚運搬車からバケツリレーで運び、海水浴場の浜辺に放流しました。元気に放たれた稚魚たちが立派に成長していくことを願うと同時に、改めて海岸環境の保全の重要性を感じました。熱中症に対する注意喚起と飲料水の提供もいただき、全員無事に清掃活動を終えることができました。参加者の皆さん、協賛各社の方々、大変お疲れ様でした。

文川若潮の会 石田 良一

知っちゃんかな

同窓会△△



文川松本 千恵子

無事に七十五まで生きたのと、中学時代の担任が米寿を迎えたのを祝って、同窓会をこの事で参加させて貰う。たった一年ながら、昨年は参加していた人が鬼籍に入り、まずはその友を偲んで献盃をするところから会は始まった。次に主催者側から挨拶があり、次いで先生にご挨拶を頂く。米寿を迎えた先生は、足が少し弱っているだけで、すこぶるお元気。まだ肌もツヤツヤで、皺もなく若い。その上、変わりなく卒業生から愛されて、みんな先生に会うと中学生に戻るかのよう。その先生が、「自分の先生としての始まりは、大津島だった。その後、先生としていきでゆく指針は大津島の生活から変わらぬものが多い」と言われ、私達は嬉しいやら感激するやら。

葉が浮かぶ。私は良い先生に出会えたと思う。いや、私のみならず、多数の同級生が、それを思っているんだと思う。そう思いながら、それぞれええシーさんバーさんになった友の顔を眺める。そして、来れなかった友を思う。健康上の理由だったり、時の流れで疎遠になり、住所がわからなくなった人もある。亡くなった人も幾人か。或いは島は嫌いと言った友も。島で一番多感な時代を過ごした友のみずみずしい時代を共に生きた同級生は、その後知り合った人達とはまた、一味も二味も違う仲間だと思う。辛い事も沢山あって、友達という名前に疑問を抱いた事もあったけど、齢七十五ともなると、それもまた、自分自身を作ってくれたピースのひとつだと思ふ。島も随分変わった。私達が子供の頃の豊かさは失ってしまったけれど、それでも、日々目にする空や海は、子供の頃の思い出に直結する。そして、その場面場面には、友のあの顔この顔。みんな、それぞれの人生を刻んだいい顔のジーさんバーさんになった。これからも人生を刻んでまた、同窓会で会つのが楽しみだなあと思ふ今日この頃。

徳山周見録

46 おまかじ・うしかじ・そくもんロー

文川大津島巡航 三崎 英和

今から20年くらい前になりますが、「男たちの大和」という映画が封切られました。この映画の中では、戦艦大和が沖繩に出撃する前に最後に停泊した場所として、徳山湾沖に浮かぶ大和のシーンも描かれていたのですが、その場所は実際の場所とはまったく違っており、とても残念に思ったことがあります。その映画にも出てくるのですが、艦橋において艦長や航海長が使っている言葉(操舵号令)に「面舵(おもかじ)というものがあります。皆さんも一度は耳にしたことがあるものだと思いますが、では、この「面舵(右方向)」「やその逆方向になる「取り舵(左方向)」「という言葉の語源はどうなっているのかはご存じですか。

そのための左舷側に舵を切るときは「とりかじ、いっぱい」となり、右舷側に切るときは「うしかじ、いっぱい」となるのです。そのうち「うかじ」は、「うもかじ」→「おもかじ」と徐々に発音がなまり、現在の号令になったみたいです。では「ヨーンロー」はどういう意味でしょうか。その語源は、「宜しく候(よろしくせうこう)」という言葉がなまったものだそう、「舵を右あるいは左に切るように」ということみたいです。

また、挨拶に立った同級生が、先生から掛けられた言葉が、忘れられない。それを聞きながら、私も先生から掛けられた言葉を思い出す。クラスで揉め事があった時、先生が「最後に決めたのは、自分じゃろう。誰が何を言ったからとか、自分の行動を人のせいのように言うが、最後に行動をする時にやると決めたのは、自分じゃろうが。自分がやった事は、自分に責任があるんじゃないか」と言ったことがある。この言葉は、私の人生の指針となった。やれん出来事がある度に、自分の責任の在処を思う。その度に先生の顔と言

もまた、自分自身を作ってくれたピースのひとつだと思ふ。島も随分変わった。私達が子供の頃の豊かさは失ってしまったけれど、それでも、日々目にする空や海は、子供の頃の思い出に直結する。そして、その場面場面には、友のあの顔この顔。みんな、それぞれの人生を刻んだいい顔のジーさんバーさんになった。これからも人生を刻んでまた、同窓会で会つのが楽しみだなあと思ふ今日この頃。

イラスト 三崎さん

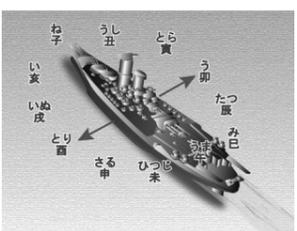


イラスト 三崎さん